修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　早川泰雄
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3—36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務である。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

文部省の要保護補助金要求

中学生31,700円に

値上がりを見込む

来年度

全修協・三地区協　原案の通過に期待

文部省の五十四年度要保護・準要保護および高度へき地児童生徒に対する修学旅行と、校外活動の援助費補助金の概算要求がきまった。

それによると、中学三年生一人に三万一千七百円、小学六年生は九千八百円で本年度につづく大幅な増額で、しかもついに三万円の大台を上回わる要求となった。これは全修協、三地区修旅連絡協の挑まぬ運動と、文部当局の時宜に適した処置といえよう。今度は第一難関の大蔵省査定の通過を期さなければならない。

【修学旅行費】要保護・準要保護の中学生は現行の二万六千百円が、五千六百円増えて三万一千七百円に、また、小学生は現行の八千三百円を千五百円上回わる九千八百円となった。対象人員は中学三年生十万六千五百十人で、昨年より七千二百四十七人の増。小学六年生は本年度の九万七千三百九十二人から十一万七千九百九十八人となり、二万六百六人増えた。この小計は本年度の十七億八百六十五万七千円より五億六千六百八十一万五千円増の二十二億七千五百四十七万二千円。（補助率二分の一。ただし産炭地域市町村には財政力指数に応じて十分の六から十分の八）

また、高度へき地の児童生徒に対する補助金要求も要保護と同額で、一－二級のへき地は本年も対象からはずされた。その対象は中学生が昨年度より二百七十二人減って一万四百六十四人、小学生も三百九十人減の八千七百九十四人この小計は二億八千五百三十九万七千円で、本年度より四千七百七十七万三千円増額となっている。（補助率三分の二、財政力指数に応じ十分の五から十分の七）

【校外活動費】遠足などをふくむ校外活動費は、準要保護の児童生徒だけを対象とし、中学生二十二万六千九百二十二人に一人当り九百七十円（現行六百七十円）小学生五十四万七千六百五十八人に一人当り六百三十円（現行四百三十円）を要求している。この金額は三億九千七百二十三万五千円で本年度の一億八千五百八十五万五千円にくらべ二億一千百三十八万円の増額となっている。（補助率二分の一、ただし産炭地域市町村については財政力指数に応じて十分の六から十分の八）

また、高度へき地は対象から除外となった。

3万円の大台に

【解説】交通費など公共料金アップに伴なう諸物価へのはねかえりが予測されるなかで、修学旅行費も一段と窮屈の度を増してきた。全修協研究部の調査によると来年度の中学校修学旅行費は生徒一人について最高三万円、最低二万六千六百九十八円で、平均二万九千九百五十三円という金額を算出している。

文部省の要保護・準要保護児童生徒に対する援助補助金も高度成長するわが国の経済に即応して年ごとに上昇している。さいきん五年間の推移をみると、中学生は四十九年度一万百円、五十年度一万三千五百円、五十一年度一万四千二百円、五十二年度一万九千八百五十円、五十三年度二万六千百円で、五十三年度は四十九年度の二・五倍以上にたっしており、反面それだけわれわれの生活が重い経済負担にあえいでいることを思い知らされる。

文部省が来年度、要保護・準要保護の中学生でついに三万円の大台を超える三万一千七百円を概算要求したことは、物価指数を基本的にとらえ、変動する経済情勢を見きわめて立案した当局の労作として高く評価される。来年度の経済予想に即応したこの要求が無修正で国会を通過するよう、全修協をはじめ三地区修学旅行連絡協議会の運動に大きな期待をかけたい。

（は）

三地区　修学旅行の実態

＜8＞

費用は高騰の様相

中学校　三泊四日の多い近畿

【問一－四】

一、学校の地域環境（つづき）

【近畿】都市四〇校（四一・二％）農村三六校（三七・一％）山村一二校（一二・四％）漁村九校（九・三％）計九七校。

なお、この項では「都市・農村」のように二地域にまたがる学校があるため合計数は調査校数を上回わっている。

二、学校規模

【関東】五学級以下＝四校（四・五％）六－一〇学級＝二三校（二六・一％）一一－二〇学級＝三八校（四三・二％）二一－三十学級＝一六校（一八・二％）三一学級以上＝六校（六・八％）計八七校。

【東海】五学級以下＝五校（七・三％）六－一〇学級＝一六校（二三・五％）一一－二〇学級＝二三校（三三・八％）二一－三〇学級＝一七校（二五・〇％）三一学級以上＝一四校（一五・七％）計六七校。

【近畿】五学級以下＝九校（一〇・一％）六－一〇学級＝二六校（二九・二％）一一－二〇学級＝二二校（二四・七％）二一－三〇学級＝一七校（一九・一％）三一学級以上＝一四校（一五・七％）計八八校。

三、実施学年

【関東】三学年＝八七校（九八・九％）二学年＝一校。

【東海】三学年＝六四校（九四・一％）二学年＝四校。

【近畿】三学年＝八七校（九七・八％）二学年＝二校。

学年の規模は省略。

四、実施の態様

▽実施時期の調査結果は省略。

▽日数調査

【関東】二泊三日＝八八校（一〇〇％）

【東海】二泊三日＝六三校（九二・六％）三泊四日＝四校。四泊五日＝一校。

【近畿】二泊三日＝五八校（六五・二％）三泊四日＝三一校（三四・八％）

二泊三日が八五・二％を占め、三泊四日は一四・三％となっている。

▽費用（支度金や小づかいは除く）

一万五千円未満＝関東六、東海一、近畿二。一万五千円以上一万七千円未満＝関東二、東海六、近畿一。一万七千円以上、二万円未満＝関東三、東海二三、近畿一五二万円以上二万三千円未満＝関東二三、東海二八、近畿三八。二万三千円以上二万五千円未満＝関東二三、東海六、近畿一五。二万五千円以上二万七千円未満＝関東二六、東海二、近畿五。二万七千円以上三万円未満＝関東なし、東海二、近畿五。三万円以上三万五千円未満＝関東なし、東海一、近畿四。三万五千円以上＝関東、東海なし、近畿一。

これからみると①二万円－二万三千円②二万三千円－二万五千円③一万七千円－二万円が上位を占めていることがわかる。（おわり）

修学旅行の
基準概要調査
本年度版できる

修学旅行界から待たれている全修協の「五十三年度・全国都道府県、政令都市別修学旅行実施基準概要調査」（写真）が完成した。本年度版には実施基準のほか全修協研究部調査による日程、経費を含めた小中高校の最近の動向や、三か年間の方面別概要、費用の推移なども収められており貴重な資料といえる。近く全修協各支部を通じて全国都道府県教委や修学旅行委員会などに贈呈される。

阪上広雄氏

和歌山県教育互助会事務局長

財団法人・和歌山県教育互助会事務局長の阪上広雄氏は九月八日午前三時五十一分、腸潰ようのため入院中の伊丹市・近畿中央病院で逝去された。五十九歳。葬儀は同十日午後二時から和歌山市紀三井寺団地三三－B－八の自宅で厳かに営まれた。

和歌山県那賀郡粉河町生まれ、和歌山商業高校卒、昭和二十五年二月、県学校生活協同組合に入り同二十八年六月、同県教育互助会へ移り、同四十二年四月に事務局長に就任。

故阪上広雄氏

阪上氏は県内教職員福利厚生のため一身をささげ、とくに近教互とともに研修旅行の開発と普及に努力、県内からの参加者は全国でも有数の地位を占めている。また全修協の幹事として研修旅行の企画にも参加、その創意には目をみはるものがあり、県の内外教育界から逝去が惜しまれている。

【関連記事三面にも】

消息

▼福山雅夫氏（日本生活協同組合学協部会運営副委員長・広島県高校生活協同組合専務理事）は同学協部会運営委員長に就任。

風紋

秋祭りの季節がやってきた。十、十一月は祭りの最盛期である。この時期になると五十余年昔の氏神祭りを思い出す。祭り前太鼓の音を聞くと心がおどる。祭りの当日、小学校は午後休み、家でも五目ずしを作りお祝いする。母からもらった十銭玉一個をしっかり握りしめ、祭り見物に駆け出していく。▼境内のお堂には三体の御輿が金色もまばゆく飾られ、牛車もこの日ばかりは体を清めた正装姿、お稚児さん、武者の面面がつどっている。その間を縫って境内いたるところ子どもの好きな露天店が立ち並ぶ。まさに祭り気分がいっぱい。御輿出発前、掛け声とともに威勢よく御輿を揺り動かす。見物の輪がそのつど伸びたり縮んだり、見たさ、こわさで小さい体は逃げまわる。祭りの興奮まさに最高潮…。五十年後の今日、この祭りの興奮、太鼓の音が潮騒となって耳に残る。▼昨今、祭りブームの中で衣裳、舞いの派手さに視覚的な興味がその中心になっている。農耕稲作民族として定着しているわれわれ日本人にとって祭りとは何かの根源的意味を探ることも必要であろう。五穀豊穣を寿ぐ秋祭りは柳田国男著の「稲の産屋」によれば、沖縄ではシラという産屋でお産をする。祭りの準備として忌みごもりが大切。物音をたてず、食物も摂らず、じっとものの中にこもる。▼稲を積むことにより休んでいる間に稲作の成長力を増す魂（たま）が増殖し子孫が繁栄する。そして祭りの後、直会（なおらい＝饗宴）が行われた。今日ではこの部分ばかりが強調され、いわゆる「お祭り騒ぎ」とはなった。稲というものに異常なほどの情熱を傾けてきた日本人の哲学だろうか。▼一方、民俗には「遠くの一致、近くの不一致」といって牧田茂著の「神と祭りと日本人」によれば、オーストリアのある村の十二月五日夜の祭りは、日本のナマハゲに全くよく似ているという。このことからも特殊性とか普遍性とか、一考を要すると思う。

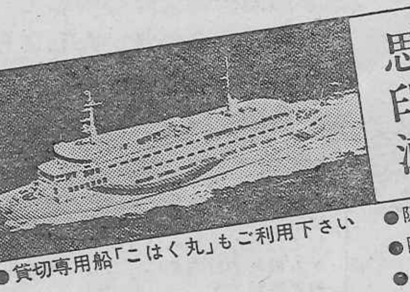
学ぶ、残す、
自己を見い出す
修学旅行にしたい。
ツーリストが
お世話します。

ツーリストは学校の主体性を尊重し、その特性に沿った個性ゆたかな旅づくりと積極的に取組んでいます。地元警察や病院などとの協力体制を密にし、万が一の事故にも万全の構え。また、事前指導用の修学旅行映画を制作し、指導の推進をバックアップ。多彩なご要望に綿密なプランですばやくお応えしています。

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号

KANSAI KISEN

思い出の修学旅行
印象的な、
瀬戸内海の船旅



●貸切専用船「こはく丸」もご利用下さい
●阪神／別府航路（毎日3便）
●阪神／小豆島・高松便（毎日1便）
●東神戸／日向（宮崎）フェリー（隔日1便）

お問合せは＝大阪市港区弁天6－7－15 ☎(06)574－9161
東京都中央区八重洲1-9-9 ☎(03)274－4271
ほか、各地支店駐在員・旅行代理店へ

関西汽船

充実した講演が好評

研修旅行のアンケートから

意義深い現地指導も

教職員〝授業に活用できる〟

全修協企画、各都道府県教委をはじめ校長会、教組、互助会、教弘、学生協などの後援による第二十二回本年度夏期教職員研修旅行は一般十三コース、特別研修五コース、日教組と共催の海外二コースで実施された。百五団、五千名を超す教職員は炎天にもめげず、各自のテーマでそれぞれ研修にはげんだ。参加者はいずれもその名にふさわしい「研修」に満足、新学期の教壇で研鑽ぶりを生かしている。アンケートのなかから研修行事の好評ぶりなどをひろってみた。（文中の敬称略）

自然界の驚異知る

山陰コース　民謡をきく楽しみも

★秋吉台の講演がよかった。（東京・常陸わか、同・安藤俊子同・田辺トリ、同・松田サチ、同・竹沢英子、同・加藤清三、千葉・江波戸衛、同・荒井秀子、新潟・中村ウメ、山形・金子千恵子、同・小野百合子、新潟・玉野静子群馬・湯浅節子、青森・佐藤まさ、神奈川・沢野さい、三重・山本久雄）

★自分の足で歩く時間が欲しかった。（石川・家正子）

★萩市の武家屋敷、呉服町などもっと時間をかけてほしい。（福島・鈴木ナヲ）

★津和野の見学時間五十分は不足（北海道・桝幸京子、東京・中村俊子）

★萩か津和野でも解説か講演が欲しかった。（東京・福田邦、福島・斉藤美知子）

★出雲大社宮司さんの話は非常によかった。（群馬・野中静江）

★蒜山高原ではもっと時間が欲しい。（東京・藤崎キサ）

★第一回目の夜行列車は疲労する。もう一泊増やしてゆとりある旅に。（北海道・山下富美子）

★宿でその土地の民謡など聞かせてもらい有意義だった。（宮城・小林かず子）

写真・下北半島の霊場恐山（本年度研修旅行・奥東北コース）金谷全修協経理部長うつす。

★旅行中に多くの研修があって一般の旅行と違った実のあるものだった。（福島・吉田静子）

★その地に適した講演がよかった。（福島・加藤キミ）

★個人では駄目なところまで入場でき、準備も万端ととのい、すばらしい旅であった。（千葉・高野静）

【注】秋吉台科学博物館での講演は同館学芸係長・庫本正氏、出雲大社は禰宜。

話し上手に魅せられる

能登・佐渡コース

★佐渡会館における講話は非常によかった。（山口・松浦直行、同・柏村ツヤ子、愛媛・上野タカコ、同・上中キヨ子、鹿児島・山門クワ、熊本・平井節子、同・玉名二葉、同・長尾節子、大阪・鍋野アキノ、滋賀・森寅三）

★佐渡ガ島についての変遷、経済状態など、まだ知らなかったことを講演で知りうれしかった。講師も話上手。（山口・桂静子、大阪・大畑清子）

★講演のとき、図面など掲示して説明があれば効果的。（和歌山・沖尚道）

★その土地にくわしい講師から話をきくことは有意義だ。もっと多く取り入れてほしい。（群馬・新保百合子）

★研修行事は意義も深く良好だった。（北海道・梶利雄、千葉・土屋茂、同・福山サダ子、京都・西出優子、同・小谷亘）

★講演にもっと時間をかけて。（大阪・東原彦信）

★いままで何気なく歌っていた佐渡おけさや相川音頭の内容がよくわかった。話し方も上手で、じゅうぶん鑑賞できた。（群馬・萩原久江、同・小林義雄、東京・池田久江、同・大場敏）

★資料館などの見学時間が不足（長崎・百崎隆次）

★日蓮上人の遺跡見学も加えて（群馬・菊池富雄）

★輪島の朝市では時間にゆとりを。（千葉・庄司良江）

【注】相川・佐渡会館における講演は新潟県立佐渡高校教諭・佐藤利夫氏。

熱意あふれる講師

能登越前コース　研修の成果ひときわ

★「能登青年の家」での講話は楽な気持ちで聞くことができ、時間のとりかたもよかった。これからも自分の職務に専念しようとする新しい希望が湧いてきた。（福島・中野ヒデ）

★「能登青年の家」で市教委学校教育課長さんのお話には感銘を受けた。上時国家と那谷寺庭園の見学にはもっと時間がほしかった。（福島・信夫泉）

★毎回楽しい話ばかり。講師の選びかたに感心した。（千葉・島崎豊、群馬・天田つや子、福島・藤原セイ、山形・滝口香代子、同・宇津木せい、北海道・中居清子）

★こんどの講話は今まで参加した研修旅行のうちで最高。（山口・重永ユリコ）

★「青年の家」の講演はよかったが、会場の暑いのには困った。（福島・鈴木孝子、島根・波田トシ子）

★「青年の家」の講話はすばらしかった。（山梨・和智藤江、同・酒井安子、同・中村志づ子、山形・大串喜美子、島根・大久保和子、同・松永貞子、埼玉・根岸愛子、岩手・藤原俊子、山口・原田トミ子、同・石田幸子、愛媛・是沢ハルキ、佐賀・角田正治、熊本・中村スミ、同・瀬上尚子、大分・小西次保、鹿児島・牛山ムツ、同・末野アヤ、北海道・中山幹子

【注】「国立能登青年の家」での講演は羽咋市教委学校教育課長・堀田成雄氏。

阪上広雄氏を悼む

なつかしい紀州弁

神代　義秀

阪上先生の訃報を聞いたときは一瞬信じられぬ思いでした。さる六月、入院先きの近畿中央病院へお見舞いしたときは、割合お元気そうで、徐々に快方へ向いつつあると聞き、むしろ看護疲れでともに入院されていたご夫人の身を案じたものでしたから。

阪上先生には昭和三十六年の夏ごろから今日まで、十七年にわたり公私ともご指導をいただきましたし、親交も結んでいただきました。とくに私が全教互の仕事をしているところなど、陰になり日向になり助言と支援を送っていただきどれほどか力強い思いをいたしました。

近教互体育大会の野球試合で名捕手としてチームを叱咤されている姿、酒席などでちょっと助平な話や戦場で震えた話など、独特の紀州なまりで話されるときの生き生きした表情、人なつっこい笑顔など、目のあたりに想い起されます。

近教互にとっても欠くことのできない存在でしたし、とくに教職員研修旅行にはなみなみならぬ情熱を傾けられ、今日の基盤を築かれた大功労者でした。早逝を惜しむ一人です。

謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。（財団法人・大阪府教職員互助組合事務局次長）

反骨精神の陰武者

岩　尾　覚

阪上広雄君が長い闘病の甲斐なく遂に永眠されました。痛惜この上なく、奥様はじめご遺族の皆さまに心からお悔み申しあげます。

阪上君は昭和二十五年、和教組厚生部（生協）に書記として採用された後、二十八年、創業期の互助組合に和教組推せんで転勤され二十九年次長、四十二年事務局長となられました。

彼は三十三年の勤評闘争のあと互助組合に加えられてきた権力側の攻撃に対し、これをはね返し主体性を守る闘いに精力的に取組んでくれました。また、白浜の宿泊施設「牟婁辺（むろべ）」の建設、厚生会の設立、最近では互助会と厚生会の統合などに大きな功績を残されました。

ご承知のように近畿では全修協の重要な事業である研修旅行については近教互が統一的に実施してくれていますが、当県の参加者数が何とか全国平均を維持できてきたのも彼の努力に負うところが多かったと思います。今後一層の前進を期待していたとき彼を失ったことは何としても残念でなりません。

あとで聞いたことですが、病気は内臓のガンであったようです。最初の入院が四十七年ですから丸六年余になります。昨年あたり事務所に座っていた彼は病気などほとんど感じさせないくらいでしたのに…。今はただ彼のご冥福をお祈りするばかりです。（財団法人・全修協和歌山県支部長）

東京のお泊りは
文教の地〝本郷〟で

経験で奉仕する　修学旅行のメッカ本郷へ

―近畿日本ツーリスト協定旅館連盟東京支部本郷地区会員―

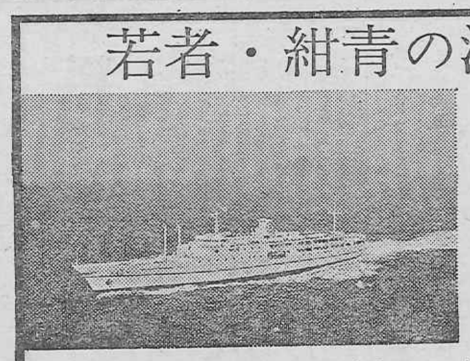
平安荘
朝陽館（本家）
本郷館（本館 別館）
日本学生会館
（旅館）かつら
文京館
眞成館
富士館
朝明館
機山館
（旅館）大正園
ふたき旅館
追分旅館
長栄旅館

富士の美しさが眼前
樹海の中の国民宿舎

標高1,000メートル、赤松樹海に囲まれた白亜のロッジ。**森林公園**や**陶芸教室**などの他**ハイキング、テニスコート**など楽しみも豊富です。もちろん修学旅行にも最適の環境にあります。

富士山北ろくの国民宿舎
富士スバルランド
予約センター☎05557－2－2236

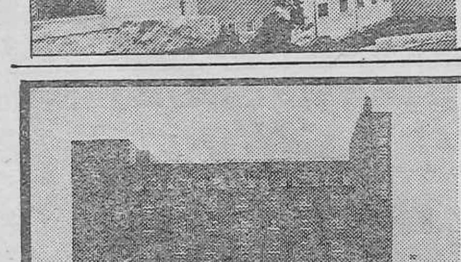
若者・紺青の海・純白の船



貸切専用純客船
さくら（13,000トン）
ひかり（4,000トン）

- スケジュール・コースはご自由に
- 旅客定員 1,800名
- サロン・休憩室・医務室完備
- 船内でのグループ活動・学習に最適
- 全室エアコン完備
- 一般客との混乗なし

Ⓐ大島運輸株式会社東京支店
東京都中央区日本橋通1－3－11
浅野ビル9F　TEL　03-273-8911



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585－1046(代表)

東京 コマ旅行会館